

そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほです。ここにいて、わたしと一緒に目を覚ましていなさい。」

マタイの福音書 26 章 38 節

イエス様は十字架へ向かうときに祈りの時を持ちました。すべての罪人を救うために避けることは出来ない道です。それは大きな大きな試練でした。ある説教者は「これは祈りという以上に魂の苦闘であった」と表現します。

そして次のように書き記します。

「もし今退いたなら、神の計画は挫折する。このときイエスが知っておられたことは、ただ前進すること。十字架に進むことだけ。」

「このときイエスが学んだ教訓は、自分に理解できないことを受け入れるということです。世の中には理解できないことが起こる。

それは信仰の極限まで試されるときである。そのとき、イエスがゲッセマネで同じ試練にあったことを思い起こすことができるのは何という慰めか。」

イエス様は私たちのために計り知れない試練をくぐられました。その時に、イエス様の力の源泉となったのは祈りでした。祈り抜いたとき、イエス様は立ち上がり、困難に立ち向かいました（46）。

このとき、イエス様は一人で祈るのではなく、そこに弟子たちを招きました。逃げ出したくなるような試練に立ち向かうためには「一緒に」祈る人々の支えが必要であることを教えています。

教会は祈りによって互いに支え合う場所です。特に祈禱会は、教会や個人が抱えている課題を共有して「一緒に」祈る場所です。だから祈禱会は教会にとって大切な集まりなのです。時には試練があまりに大きくて祈ることが出来ないこともあります。しかし、誰かが代わって祈ってくれることで支えられるのです。そのような経験をした人は、次に誰かが祈れなくなったときに代わって祈り、今度は支える側になるのです。これが霊的共同体の強さです。

祈ることは決して容易ではありません。弟子たちは十字架のプレッシャーに圧倒されて眠るほどでした（ルカ 22 章 45 節）。目を覚まして祈り続ける祈り手になるには訓練が必要です。だからこそイエス様は彼らを忍耐深く祈り場に招きました。私たちが招かれているのです。（泰）

【ウクライナ支援献金募集のお知らせ】

教会より世界宣教献金から緊急支援献金を送金しました。今後も状況を見極めながら追加の献金を予定しています。

また、今回のウクライナの危機を覚えて特別に献金を献げたいと志をお持ちの方のために、支援献金箱を設置致します。来会の難しい方で志のある方は、振り込みや郵送などで教会にご送金ください。その際には、必ず、その旨を電話、メール、FAXでお知らせください。

【イースター特別賛美(リモート)の募集】

イースター礼拝ではリモートでの特別賛美を予定しています。つきましては、奉仕者を募集します。希望者は係(山口光兄、林修養生)まで。締切3月20日

【有志ボランティアによる無料食品配布への寄付募集】

配布日 4月2日(土)

寄付食品募集 3月中は毎日曜日に

教会玄関に回収箱設置

問い合わせ 山口光兄
ご協力をお願いします。

【消息 報告】

・教団年次総会 6日(日) 午後オンラインで行いました。

【新型コロナウイルス関連】

東京都の発表によると病床使用率は42.5%と、いまだ50%に近い数値となっています。一方で、新規感染者数は徐々に減少し、ここ数日は1万人を下回っています。油断はできませんが、減少傾向で推移していることに望みを抱きます。多くの方にお目にかかれずに残念に思います。互いのために祈りましょう。

① 礼拝式について

第1礼拝 9時 / 第2礼拝 11時

*礼拝堂での出席を希望される方は、事前の申し込みをお願いします。

*オンラインを使用できる方はそちらをご利用ください。

*礼拝映像のネット配信は9時より
(第1礼拝を配信します)

② 小学科ホザナ礼拝について

時間 10時20分より
形式 オンライン(zoom)
zoomのID等はスタッフに問い合わせてください